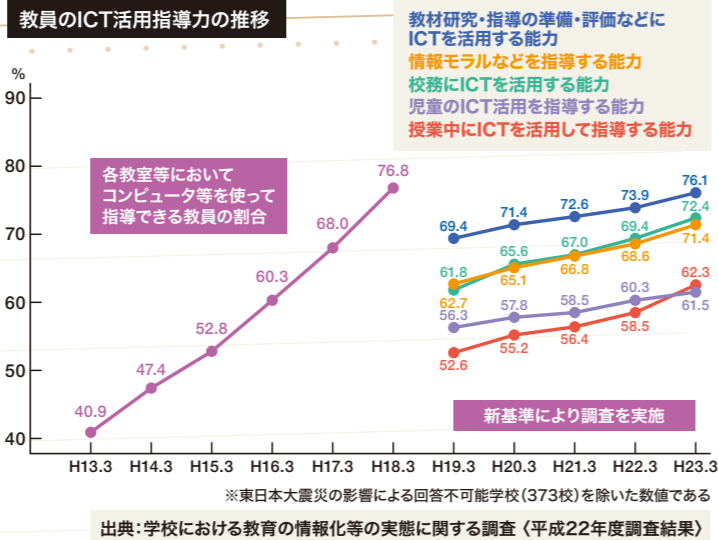


教員への支援の在り方

教員が子どもたち一人一人の能力や特性を把握し、これらに応じた学習を産み出す役割が一層期待されています。文部科学省が作成したチェックリストに基づく調査によれば、ICT活用指導力のある教員は概ね平均6～7割にとどまっており、地域間格差も顕著です。



授業におけるICTの活用に関する研修会の例



教員研修

- 国においてはe-ラーニング研修等の実施、地方公共団体においては、教育委員会や教育センター等における国が養成した研修指導者を活用した研修や、大学等と連携したICT活用指導力向上のための講習を実施することが考えられます。

教員の養成・採用

- 教員養成を行う大学や教職大学院等において、新たな教員養成カリキュラムの開発等を図る必要があります。
- 教職課程等において、教員を目指す学生が授業や実習を通じて、情報端末・デジタル機器やソフトウェアに触れる機会の充実を図ることが必要です。
- 教員の採用は、ICT活用指導力を十分考慮して行うことが期待されます。

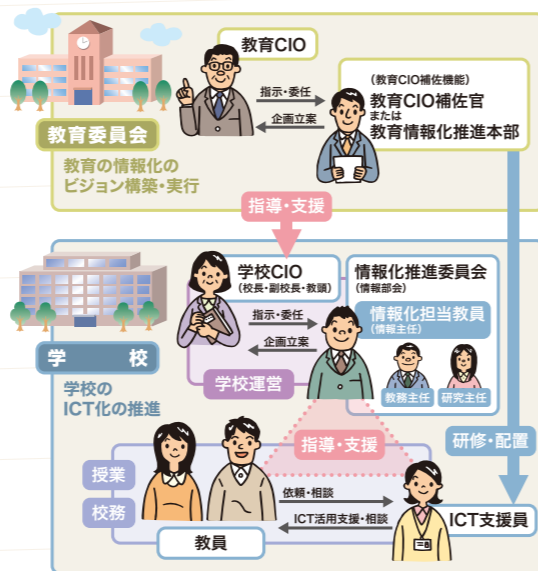
教員のサポート体制

- 教育の情報化の統括責任者である教育CIO (Chief Information Officer) 及び学校の管理職としての学校CIOを配置することが重要です。
- 外部の専門的スタッフ (ICT支援員) を配置したり、地域の実情に応じて広域的なヘルプデスクを設置することが重要です。



ICT支援員が発表者の画面を電子黒板に表示している例

教育委員会と学校が連携した教育の情報化の推進体制の例



学校教育の情報化の着実な推進に向けて

教育の情報化の着実な推進に向けて、これまで掲げてきた重要な事項と合わせて、各事項横断的に取り組んでいくことが重要です。可能な取組から早急に実施します。

ソフト・ハード・ヒューマンの総合的計画的推進

- 効果的な推進や地域間格差の解消に向けて、例えば、地方交付税措置と併せ、一定限度用途を限定した支援措置など効果的な支援の在り方について検討することが重要です。

総合的な実証研究の実施等

- 文部科学省の「学びのイノベーション事業」(ソフト・ヒューマン・教育面)と総務省の「フューチャースクール推進事業」(ハード・インフラ・情報通信技術面)の連携により、モデル地域・学校などで総合的な実証研究を行います。

児童が自分の考えを発表し、学級全体で話し合う事例

総務省「フューチャースクール推進事業」の実証研究校における活動の例

事例1

児童はタブレットPCを使って、面積が元の2倍の四角形を描く方法を考えとともに、電子黒板で発表しています。これにより、複数の児童の考え方を学級全体で共有し、話し合う場面が生まれます。



6学年 算数の例

事例2

児童がタブレットPCを使って、数のまとまりについての考えをまとめています。その考えを、電子黒板に4人分を並べて表示しています。画面に表示された様々な考えを参考にしながら、学級全体で数のまとまりについて話し合う場面が生まれます。



1学年 算数の例

- 学識経験者、地方教育行政関係者、教員、民間企業、地域や家庭等の関係者や、近年の情報通信技術の進展に精通した若い世代の考えも反映することが可能な「学びのイノベーション推進協議会 (仮称)」および「フューチャースクール推進研究会 (仮称)」を開催し、合同会議も開催します。

- 東日本大震災の被災地等において創られていく学校については、地域や学校のニーズを踏まえながら、「教育の情報化ビジョン」に記載された内容を生かし、21世紀の学びと学校をリードする新たなモデルとなることが期待されます。

総合的な推進体制の構築

- 教育の情報化に関する総合的、継続的な調査研究及び推進を行う基盤の確保を検討することが重要です。
- 産学官等連携による広範なネットワークの形成、教育の情報化のための社会的機運を醸成することが重要です。